



第59号

発行 世田谷区町会総連合会
 世田谷区若林 4-31-9 ポライト第2ビル202
 ☎・FAX 03-5481-3456
 発行人 会長 三羽 和彦
 編集 情報誌編集委員会
 編集委員長 堀江 義之

地域情報

世田谷地域

住めば都 離れば故郷

野沢一丁目明朗会 会長 滝嶋 秀夫

世田谷区の東南端、下馬地区町会自治会連合会（10町会・自治会）の中の一つである当町会は、一丁目エリア内に他町会エリアや町会に加入していない高層マンション群地域があり、更に小学校、寺墓地、大型保育園、地区会館・児童館等があるなど宅地面積が少なく、世帯数820と、10町会・自治会の中では一番小さな町会です。

地域環境は、国道246号、環状7号、龍雲寺通り、世田谷観音通りの四つの通りの中間点に位置し、町会を東西に分断する二つの段差によって行き止り箇所や道路狭隘箇所も多く、木造密集地域と相まって、火災危険度ランクの高い地域に指定されています。

そのため、東日本大震災以後いち早くスタンドパイプ7台を設置、行政の地域配慮の2台を加えて計9台を以て初期消火訓練に励んでいます。

令和4年度より、区内の大学生による課題研究「世田谷地域交流ラボ」が実施され、「感震ブレーカーの普及」「狭隘道路の改善」「スタンドパイプの重要性」等の研究課題に現場実態の視察に協力させて頂き、その研究成果を踏まえ実施できるものから町会活動に取り入れることをしています。

超高齢社会にあって、町会活動の課題は①町会費及び各種寄付金の集金の効率化②役員・委員の高齢化と「なり手不足」対策③活動参加への関心の薄さへの対応だと思えます。

当町会では、①については町会費のほか四つ〔日赤、赤い羽根、歳末助けあい、氏子神社維持費〕の寄付金集めを、令和2年度より会員の寄付任意を考慮しつつ、一括集金に変更し約40班の班

高層火災防止の感震ブレーカー取付け勧奨ビラ

防災情報

通電火災防止に感震ブレーカーの取付けを!!

取付け例「標準型」に取付(主電源型)にも取付け可!

【啓蒙の真意】
 地震等により停電が起きた後の電気が復旧した時に発生する大規模火災
 感震ブレーカー：地震の揺動を感知し自動的に電源を遮断する装置

感震ブレーカー取付け勧奨ビラ

長さんの負担軽減を図っています。

②と③については、地道にお願いしていくしか方法はないと思いますが、令和6年4月から町会の活性化を目指しSNS「いちのいち」を導入しましたので、登録会員が増えることを期待し、今後の推移を待ちたいと思っています。

近年、「在宅避難のすすめ」を取り上げることが多く感じられます。

下馬地区町会自治会連合会でも「在宅避難のすすめ」チラシを作成し全戸配布を完了しています。

当町会の避難所（小学校）は近隣4町会・自治会で運用され、収容人員800名程度では当然にし

て対応不可能です。いざとなったらどうなるものか判りませんが、日頃より在宅避難を意識づけしておく必要があると思います。

「災害の痛みは自己責任」と防災の専門家が言っていました。確かに地震発生という自然現象は誰の責任でもありません。その地震によって受けた物的・人的被害は、自らが行う普段の様々な対策により減少・軽減されるものだと思います。

「自助」が大切です。

当町会には、事業運営の拠点となる町会事務所なるものが有りません。その時その時の会長宅を事務所登録しています。従って、歴代町会事業経歴の共有がなく歴史が残っていません。

町会設立年や会名由来も確かなことは判りませんが、平成10年に各会員向けに作成した「会員名簿」の中に、三代前の会長が作詞した「会員名簿」という歌が載っています。

「二五九の創立で、町は明るく朗らかをスローガンに立ち上がる、ああみんなの明朗会」という詩です。

北沢地域

赤堤4丁目町会の活動

赤堤4丁目町会は、京王線下高井戸駅と世田谷線下高井戸駅・松原駅に隣接しています。そのため賑わいのある商店街と閑静な住宅街という2つの特徴をもった街並みとなっています。

地域の中は松沢小学校や多くの保育園だけでなく、近隣には日本大学文理学部・都立松原高校・日本大学櫻丘高校・松沢中学校もあり、朝にはたくさんのお小学生・中学生・高校生・大学生・乳幼児を連れた保護者の姿があります。

コロナウイルス感染症が広がる中では、町会活動も思うようにできませんでしたが、令和4年度の終わり頃から少しずつですが、活動を再開することができるようになりました。

赤堤4丁目町会では、地域住民の交流と防災に力を入れています。大きな活動として、地域内にある区立赤松公園での夏休みラジオ体操と防災訓練の2つがあります。令和5年度の夏休みラジオ体操は7月21日から30日までの10日間実施し、幼児から高齢者までの幅広い世代の方が参加しまし



「地域交流ラボ」
日大学生と協働のスタンドパイプ消火訓練

ここから昭和25年9月の創立で、会名の由来も見えてくるかと思っています。

何の名所旧跡のないごちゃごちゃした平凡な住宅街ですが、夏になれば近隣の野沢龍雲寺の盆踊り大会（野沢三丁目）や野沢稲荷神社（野沢二丁目）の祭礼もある「住めば都 離れば故郷」、そんな野沢一丁目明朗会と思っています。

赤堤4丁目町会 会長 小林 静世

た。朝の空気の中、午前6時30分からのラジオ体操の放送を聞きながら、指導員の号令のもと元気に体操をしました。期間中の1回は初期消火訓練を行うのも恒例となっており、体操終了後、参加者は水消火器を使用して訓練を行いました。

防災訓練は3月17日に実施しました。区立赤松



初期消火訓練の様子

公園にはマンホールトイレとかまどが設置されており、地域の方に知ってもらおうとしたのが訓練を始めたきっかけです。訓練内容は世田谷消防団第11分団指導のスタンドパイプ訓練・松沢あんしんすこやかセンター指導の車いす体験・レス



かまどを使った炊き出し訓練

キューキットを使用し木材を切断するレスキュー訓練・かまどでお湯を沸かす炊き出し訓練・マンホールトイレ見学などを行いました。晴れた空の下、親子連れの姿も多く見られ、ひと通り体験をされた方には防災啓発グッズを配付しながらH頃の備えの大切さを伝えました。

他町会と連携した活動として、松原3・4丁目自治会のみなさまと一緒に松沢小学校避難所運営委員会の運営委員となり、避難所運営方法の検討をしています。訓練（委員対象・松沢小学校児童対象・地域住民対象の計3回）も行い、特に住民対象の訓練では収容人数の制限・備蓄品の種類・トイレの状況などの説明を行い、在宅避難の必要性についての周知に努めました。

これからも赤堤4丁目町会は、役員一同が一丸となり「地域のみなさまの声を反映した活動」「子どもから高齢者までのあらゆる世代の方が参加でき、交流につながる活動」「災害に備えたまちづくりを目指した活動」を今まで以上にすすめていきたいと思ひます。

玉川地域

尾山台自治会と宇佐神社

尾山台自治会 副会長 田中伸一

尾山台自治会は、尾山台1丁目と2丁目の一部地域を活動拠点としております。

わかりやすく言えば、環状八号線より南側で駒八通りを環状八号線より通り抜けた南北道路を主軸に左右の住宅街が自治会の範囲であります。地域的にも住宅数はそれほど多くはなく、閑静な住宅地となっております。

尾山台自治会内には尾山村地域の鎮守の森として、約900年前ごろより宇佐神社が鎮座いたしております。

まず、自治会と宇佐神社の関わりを紹介させていただきます。

- 災害時：神社の境内は、一時避難場所として指定されております。幸いなことに一時避難場所として使用したことはありません。
- 交通安全運動：宇佐神社鳥居前の駐車スペースをお借りしてテントの設営を行い、交通安全運動を実施いたしております。
- ごみゼロデー：毎年実施しているごみゼロデーの集合場所として、宇佐神社鳥居前に自治会員が集合しております。また、清掃後のごみ収集

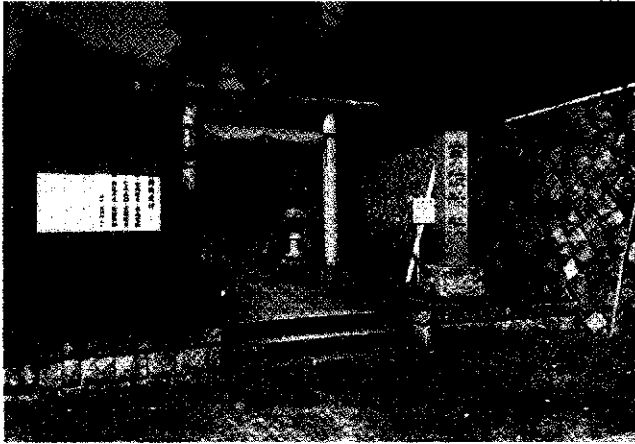
場所としても使用いたしております。

- 自治会総会場所：自治会総会時の集会場所として宇佐神社社務所内の部屋をお借りして、町内活動報告と議事進行をいたしております。
- 防災機器倉庫：宇佐神社裏手に防災機器倉庫を設置して、D型可搬ポンプ等を収納しております。尾山台自治会の活動は、使用場所、設置場所など宇佐神社無しでは語れないと言っていると思ひます。

ここで宇佐神社自体の紹介を少しさせていただきます。

宇佐神社は約900年前、八幡太郎義家の父、源頼義公が安倍一族の謀反の討伐を朝廷より命ぜられ京から武蔵の国に入り、ここ尾山の地に陣幕を張りました。すると大空に白雲が現れ、源氏の白旗に見えたことから源頼義公は大いに喜び、勝利の暁にはここ尾山の地に八幡社を建てることを誓い蝦夷地に向かいました。

安倍一族を平定し、京への凱旋の道すがら、先年の誓いによって、ここ尾山の地に八幡社を建



宇佐神社鳥居前

て、神に勝利を報告し、感謝したのが宇佐神社の起こりとされています。それ以降近年の出来事では、太平洋戦争時、境内に防空壕を掘って住民の避難場所として活用、社殿を建て替えるなど尾山村の氏神様として、また氏子の崇敬と親しみを集めて現在に至ります。神社の北側には、森と言っ

ていい程の樹木が生い茂り、多摩川方面から見ますと、まさに鎮守の森のように見えます。

尾山台自治会と宇佐神社との協力関係で、自治会活動が出来ています。今後も連携を密にし、協力関係を強化しながら、住民の生活向上を図りたく考えております。



宇佐神社鳥居前にて交通安全運動実施状況

砧 地 域

変わりゆく町会活動

千歳台睦町会 会長 近藤 雅文

千歳台睦町会は、環状八号線外回り側と小田急線（千歳船橋駅と祖師ヶ谷大蔵駅間）上り側に接した、地理的には分かりやすいところにある500世帯（会員数は、約半数の250世帯）程の町会です。

環境面では、大きな通りに面している割には静かで、町会エリア内には世田谷区立笠森公園があり、ブランコなどの遊具や砂場、ベンチ、そして緑もあり、大人から子どもまで幅広い人の憩いの場所になっています。この公園の横を、丁度町会エリアの真ん中を通っている荒玉水道道路があります。抜け道マップにも載っているの、比較的交通量も多い道路です。

地理的な話をしましたが、町会活動の話をしますと、この環境下ではいろいろな行事が出来ましたので、“行事の陸”と呼ばれるほど多くの行事を行っていました。

笠森公園と都営アパートの集会所が使えたことが大きく、笠森公園では、運動会（直線で50m走ができ、多くの参加者と各種競技で盛り上がりました）、盆踊り大会（やぐらを立てて万国旗の飾りつけができ、踊る人も多く、模擬店も出て

賑わっていましたが）、防災訓練（放水訓練、消火訓練、起震車体験、煙中体験等）、花見、公園清掃等が行われ、都営アパートの集会所では、懇親の茶話会（毎月実施）、流し素麺、芋煮会、BBQ、餅つき大会（食べ物関係では、町会で一番大きなイベントで、もち米150kgを使用）、新年会、映画鑑賞、救命訓練等が行われておりました。

現在は、公園でお隣の千歳台南会さんとの合同



防災訓練の様子

防災訓練と清掃活動になっております。都営アパートの集会所での行事は、新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、ここ最近の4年間では、昨年12月に行いました4年ぶりの餅つき大



全国交通安全運動期間中の幕舎

烏山地域

北烏山の親和会です！

私たち親和会は、世田谷の北のはずれ、調布と三鷹、杉並区に隣接する緑豊かな町会です。近くには26もの寺院があり、四季折々の花が咲き、訪れる人が絶えません。

550世帯の小さな町会ですが、それなりに活動しやすい面もあり、年間を通して続けている行事がいくつかあります。

●親子夕涼み会

夏休みの最後の日曜日に行うイベントです。寺町通り区民集会所を全館貸し切りで、一階の和室では抽選会、ロビーにはスーパーボールすくいとミニボーリング、コイン落とし、コリントゲームが並びます。二階の会議室では射的コーナーとボール的当てと、子どもたちの喜びそうな遊びが用意されます。

全館冷房の中で行うので暑い夏には涼しい時を過ごせると好評で、大勢の家族連れで館内がいっぱいです。

毎年夏が来ると今年は何をしようと考えて、役員会を行い準備にのぞみます。

コロナ禍で3年の中止を余儀なくされて、久し

会以外は全て行えませんでした。

各町会・自治会共通の問題になります高齢化問題と後継者不足もあり、同じことを同じように続けようと思っても難しいのが現状です。そして行事と共に防災・防犯・安全にも力を入れているのですが、町会員名簿が作れないので連絡ができない状況が生まれたり、盆踊り大会は音がうるさいとの苦情からできなくなりました。近隣では除夜の鐘がうるさい、火の用心の拍子木がうるさいなどいろいろな苦情から、こちらも断念しなくてはならなくなるなど町会活動も難しくなってきました。

一方では、何でやらないのか、他方では何でやるのかと、多数決では決められないこともあり、運営に当たっては多くの問題も抱えておりますが、いかに町会活動に関心をもってもらえるか、参加をしてもらえるかななどを考えながら、町会活動を続けて行きたいと思っております。

親和会 会長 千葉 範子

振りの昨年は、待ちわびた子どもたちの笑顔と走り回る姿に、係を手伝う児童館の皆さんや近隣の皆さんも大人の笑顔を取り戻していました。

今年は数えて14回目、どんな工夫をしようかとそろそろ考える日々です。

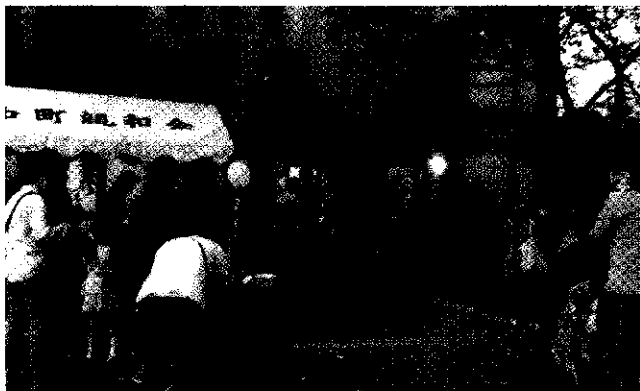
●お花見会

3月31日には毎年寺町通り集会所の和室で、お花見会を行います。

集会所を建てた頃に植えられた、ソメイヨシノとしだれ桜は、15年以上も経って前庭に咲き誇り、まるでさくらのトンネルのようです。それをながめつつ、お茶とお菓子をいただきながら手作りの和紙細工の箱づくりをします。最初は高齢者のふれあいの場とおしゃべりをしようと思ったのですが、近年は男性も、そして親子連れもと参加者が増えて、ふれあいの場となっています。



スーパーボールすくいを楽しむ子どもたち



親子夕涼み会の様子

毎年変わらず3月31日と決めています、その年のよって桜は咲かなかつたり、終わってしまったりと…。今年はまだ二分咲きでした。

●夏休みラジオ体操

夏休みの最後に一週間行う夏休みラジオ体操は

近くの小学校の校庭で行い、校長先生も朝早くから参加して下さり、1日200人以上の親子連れやご近所のおじいちゃんおばあちゃん、校庭はいっぱいになります。

ほかにも、秋の敬老の日お祝い、親睦日帰りバス旅行と、親和会独自のイベントは会員同士のふれあいの場づくりが目的です。

夕涼み会で手伝ってくれた小・中学生だった子どもたちが、すっかり大人になって来てくれたりすると、絆づくりも担っていると実感します。

一人生活の会員が亡くなっていたり、町会が抱える問題も多種多様です。どんなことが出来るか、やらなければならないのかを考えながら、活動を続けていきたいと思っています。

町総連ニュース

表彰

▼令和6年6月20日 東京都町会連合会表彰
令和6年度は3名の方が表彰を受けられ、6月20日(木)に式典が行われました。

これまでのご実績に敬意を表するとともに、今後の益々のご活躍にご期待いたします。

伊藤 正敏 理事 (池尻西町会 会長)

岡庭 茂行 理事 (桜丘町会 会長)

鈴木 喜代志 理事 (上北沢1丁目自治会 会長)

編集後記

この春の桜の開花は嬉しいことの一つです。寒暖差の大きい天候が続いたので、桜が開花してから4月中旬までの長い期間、近場で美しい花を眺められました。満開の桜を見て心が洗われるとどなたかが言っていました。正にそのとおりですし、やはり

入学式には桜が似合いました。

平成7年の創刊以来、本誌は世田谷区町会総連合会の役員向けに5地域全ての情報を年2回、白黒誌面8ページ仕立てで発行してきました。しかし、全ての町会・自治会に回覧し、良質な情報を広く区民の方々にもお知らせできるよう、平成28年の43号からは見やすく読みやすくなるように紙面をカラー化し、頁数を減らし発行部数を増加しました。そのため、5地域の情報を年間3地域と2地域に分け、2号に分けて紹介することとなりました。

しかし今回より、誌面を6ページ仕立てにして、再び5地域全ての地域情報を1号の中でお届けできるようになりました。

43号以来、多くの皆様に愛読されてきたことを大変嬉しく思っています。

本誌は、様々な生い立ちをもつ町会・自治会の会長さんなどの、執筆当時の思いがたっぷり詰まった情報誌です。活動、取り組みや苦労話は大変参考になります。編集委員の一人として、ご活用いただけることを強く願っています。

編集委員 網敷 光剛

※二次元コード

世田谷区町会総連合会のホームページ

世田谷区町会 検索



スマートフォン等で読み取って、簡単にホームページを見ることができます。